
こうして僕らは異世界へ。

藤安

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

こうして僕らは異世界へ。

【コード】

N6969S

【作者名】

藤安

【あらすじ】

約二か月前。同学校、同学年、異クラスの男子生徒が蒸発しなさいまして。

「どう思っかね、梶原さん」

双子の妹に聞いてみる。我が妹はどうでもよさそうに答えた。

「夜空の星にでもなっただんでない？」

「死んだるがな」

「最近は何が起こるか予測がつかないご時世ですぜ、兄貴」

「うむ、違くないな」

そう、妹の言うことは間違っちやいない。
十分先、一分先に何が起こるかなんて分かる筈がないのだ。

約二か月前。

同学校、同学年、異クラスの男子生徒が行方不明になった。顔ぐらいは知っている。体育で一緒だったからだ、多分。名前は大竹、だったか。日本人の名字の中で、結構多い部類に含まれる名字だ。はっきり覚えていないから、あんまり目立たない生徒だったんだろうけれども。

まあとにかく、その生徒がある日突然蒸発しなさいまして。当初は家出だなんだと騒がれていたが彼の自宅の部屋から無くなっていくものは何一つなく、遺書の類も全く無く、ただただ本人のみが学校帰りに消え失せた訳だ。とすれば事件に巻き込まれた可能性が大きい。警察まで登場して色々と捜索したらしいが、大竹本人はおろか不審人物だつて見つからなかった。さあここで問題提起。いったい彼は何処へ行ったのか。そしてどうなっただろう。

「どう思つかね、梶原さん」

夕暮れの道を歩きながら、俺は隣を歩く双子の妹に聞いてみた。

「んー」

どうでもよさそうに呟いて答えを探すように空を見た我が妹は、どうでもよさそうに答えた。

「夜空の星にでもなっただんでない？」

「死んどるがな」

「最近は何が起こるか予測がつかないご時世ですぜ、兄貴」
「うむ、違くないな」

そうだ、妹の言うことは間違っちゃいない。十分先、一分先に自分がどうなってるかなんて分かる筈がないのだ。大竹だつてそうだっただろう。実際にどうなったかは不明にせよ、いきなり巻き込まれたに違いない。事件に巻き込まれたいと思つて巻き込まれる人間はいないだろうし。……うむむ、現世は恐ろしや。

電線で区切られた空を見ながらそんなことを考えていた時だった。

「……兄さん」

「おう？」

いつも冷静沈着な妹が冷静沈着な声で俺を呼ぶから顔を向けたら、彼女は少し先を見ていた。俺もつられてそちらに視線を投げる。

「……兄さん、ここで問題提起。一体あれは何ぞや」

「……世界は未知の現象でいっぱいぞ」

「ほう、お主はあれが未知の現象だと思つわけか」

「YES!!」

「……I think so, too!!」

二人で顔を見合せて。

二人で『それ』にくるりと背を向けて。二人で同時に駆け出した。双子の以心伝心を舐めちゃいけない。

だけれども。

実際逃げきれぬ可能性なんて無かったのだ。俺達の何十倍ものスピードで追ってきたそれに、俺達双子の足の速さは完敗した。まあ要するに捕まってしまった訳で。

ふわり。体が浮かぶ感覚に、俺は頭の隅で思った。

一分先はどうなるか分からない？訂正訂正。三十秒先だって分からないんだ。

さあて、俺達双子の運命やいかに。

こうして僕らは異世界へ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6969s/>

こうして僕らは異世界へ。

2011年10月9日00時26分発行